

ちよっぴ
ひといき...

茶ぐわくゆんたく

149



「発展し続ける大謝名交差点」

上の写真は、1965(昭和40)年の大謝名三叉路の様子です。かつて、軍道1号線とよばれ、付近に米人住宅・米人商社・映画館などがあり、外人相手の商売が繁盛しました。また映画館では、映画と芝居が交互に上映されていました。1972(昭和47)年の本土復帰に伴い、国道58号になりました。

下の写真は現在の大謝名十字路です。現在、国道58号と県道34号線が交差する大謝名三叉路は、宇地泊・大謝名線が開通し、交差点となりました。今や地区の中心にとどまらず中部及び北部を結ぶ、交通上とても重要な拠点に位置しています。大謝名〜宇地泊・大謝名〜真栄原の区間の朝夕のラッシュ時や、



▲58号はかつて軍用道路1号線とよばれていました。1965(昭和40)年

コンベンションセンターや海浜公園などでの行事開催時など、大謝名交差点の渋滞は慢性化しています。2013(平成25)年現在、大謝名交差点の事故件数は市内でワースト二になっています。

現在、58号宜野湾バイパスの宇地泊と浦添の牧港間に橋を架ける工事が進められ、空港から宜野湾まで車で短い時間で移動できる状態になります。橋がかかり空港から宜野湾までが近くなると、コンベンションリゾートエリアへの観光客の数も増え、大謝名交差点を通るレンタカーの数も増えるかもしれません。ますます発展する大謝名交差点から目がはなせません。

【問合せ】

市立博物館 ☎870-9317



▲現在の大謝名交差点2016(平成28)年

其の27

ぎのわんの 歴史・文化遺産を歩く

はじめに

今月は、平成二十七年三月三十一日に返還されたキャンブ瑞慶覧(西普天間住宅地区)で市文化課が実施している緊急発掘調査の状況について速報としてご報告します。緊急発掘調査とは、開発工事によって壊されてしまう遺跡を事前に調査し、遺跡の情報を詳細に記録して後世に残していくことを目的としています。

遺跡の内容

今回紹介する遺跡は、喜友名山川原第八遺跡(きゆうなやまがーばるだいはちいせき)です。この遺跡は、平成二十七年に実施した試掘調査の結果、新たに発見された遺跡のひとつです。遺跡の年代は、先史時代から近代までの複合遺跡と考えられます。先史時代については住居跡などの「遺構」は見つかっていませんが、土器や石器などの「遺

物」が出土しています。また、近世頃に造られたと思われる建物の柱の跡がまとまって発見されたことから、近世には住居として使用されたと考えられます。柱の跡からは、十八世紀頃の沖縄で作られたお碗の破片が出土しました。しかし、戦前の航空写真には、周辺一帯は畑地が広がっており、ある時期に畑地を広げるために建物(住居)を取り壊したものと推測されます。

同遺跡からは、グスク時代の遺物も少数ですが確認されており、今後の調査でグスク時代の建物跡も発見されることが期待されます。調査はまだ始まったばかりであり、調査の進捗によって新たな発見があるかもしれません。

【問合せ】

文化課 ☎893-4430



▲喜友名山川原第八遺跡(黄枠)



▲柱の跡(※分かり易いように白線を引いています)